

# 名古屋音楽大学

平成 21 年度 大学機関別認証評価  
評価報告書

平成 22 年 3 月

財団法人 日本高等教育評価機構



## I 認証評価結果

### 【判定】

評価の結果、名古屋音楽大学は、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしていると認定する。

### 【認定期間】

平成 21(2009)年 4 月 1 日から平成 28(2016)年 3 月 31 日までとする。

### 【条件】

自己点検・評価を恒常的に行う体制を確立し実施するとともに、その結果を教育研究をはじめ大学運営の改善・向上につなげるシステムを構築し、平成 26(2014)年 7 月末に進ちよく状況を含めて報告書（根拠資料を含む）を提出すること。

## II 総評

建学の精神である「共なるいのちを生きる」の実践として、仏教精神に基づく人間知性の開発と未来を指向する芸術性豊かな人材の養成を教育の基本理念に掲げ、入学時の真宗大谷派名古屋別院の参拝、「謝徳会」「報恩講」などの宗教行事を行うことにより、人間性を高め、より高次の音楽道を追求するという大学の使命・目的を学内外に示している。

教育研究組織として、1 学科 16 コースからなる音楽学部と 4 専攻からなる大学院音楽研究科が置かれ、附属音楽アカデミーが設置されており、教育研究上の目的を達成するため、それぞれ相互に適切な関連性を保っている。

教育方針を形成する組織と意思決定過程は、大学の使命・目的及び学習者の要求に対応できるよう整備されており、より充実した組織整備や審議に向けて工夫の余地はあるものの、概ね適切に機能している。

教育課程は、体系的に編成され、その内容も適切に設定され、幅広く音楽を学ぶ工夫がなされている。今後は、シラバスの記載内容についてより充実させることに期待したい。

学生の申し出に基づく個人レッスンの担当教員の変更を保証している点は、音楽大学の教育姿勢として注目に値する。また、建学の精神を踏まえ、邦楽及び東洋・アジアの民族音楽に関する講座を開設している。

学生の練習室に対して、利便性・安全性を配慮し、教育学習環境の整備に努力している。

学生サービスの体制は、専任の相談員が学生に対する健康相談、心的支援、生活相談、就職指導などを適切に行っている。

大学設置基準に定める必要専任教員数・教授数が確保され、適切に配置されている。教員の採用・昇任は、教員選考規程などが定められており、適切に運用されている。

職員の組織編制の基本視点及び採用・昇任・異動の方針は、明確に示され、適切に運営されている。

SD(Staff Development)に関しては、年 1 回全事務職員を対象として「学園事務職員研修会」を行うなどの取組みがなされている。

教育研究支援のための事務体制については、教育研究支援と学生の厚生補導・学習支援との分野の横断的対応ができるよう改善するなど適切に機能している。

大学の使命・目的を達成するために管理運営の方針が示され、機能している。教学部門と管理部門の連携も所属長会、運営委員会などで大学運営の共通の目的を共有・協力している。監査については、学園監事による監査、監査法人による監査のほかに「同朋学園内部監査室」を設置し、「三様監査」を実施し始めている。

自己点検・評価については、活動は散発的であるが、今後は学園で実施される教員評価制度と連動しながら組織的な対応に期待したい。

財政については、「三大学統合計画」を視野に入れた安定的収入確保を前提とする中長期収支予測を策定し、収支均衡を考慮した学園運営を目指している。財務情報は、学園広報誌、学園ホームページ上に掲載して広く公開されている。

大学が擁する3つのホールは、多様な教育研究活動のほか、一般への貸出しなど幅広く活用されている。

災害時に備え、キャンパス内に備蓄品倉庫が設けられ、飲料水・非常用食品・医薬品などが準備されていることは注目に値する。バリアフリー化などに関しては、工事の完了に伴い、大幅な改善が確保される。第二次整備事業によってアメニティに配慮した教育環境が一段と整う見込みである。

大学施設の開放は、ホールなどの貸出しのほか、図書館の閲覧、公開講座の開催、リフレッシュ教育など大学が持っている物的・人的資源を社会に提供する努力がなされている。

建学の精神が大学の組織倫理の基底をなす考え方として据えられており、必要な組織倫理に関する規程が整備されている。

大学の教育研究成果の学内外への広報活動体制は、教育研究成果の発表を行う各種の演奏会活動のピーアールをホームページ上に掲載するなどのほか、大学機関誌「めいおん」を年に2回発行し、大学関係者に送付して情報の共有を図っている。

### Ⅲ 基準ごとの評価

#### 基準1. 建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的

##### 【判定】

基準1を満たしている。

##### 【判定理由】

建学の精神である「共なるいのちを生きる」の実践として、仏教精神に基づく人間知性の開発と未来を指向する芸術性豊かな人材の養成を教育の基本理念に掲げ、入学時の真宗大谷派名古屋別院の参拝、「謝徳会」「報恩講」などの宗教行事を行うことにより、人間教育を中心とした実践的教育が行われている。

建学の精神及び大学の基本理念は「名古屋音楽大学学則」「名古屋音楽大学大学院学則」に明示されているほか、大学案内や名古屋音楽大学附属音楽アカデミーの案内、演奏会のプログラムなどの刊行物及びホームページに掲載されている。また、授業科目として「音

楽と人生」を開講し、「共なるいのちを生きる」をテーマに多彩な講師による講義を行うとともに理事長などによる建学の精神に係る訓辞を通じて人間性を高め、より高次の音楽道を追求するという大学の使命・目的を学内外に示している。

## 基準 2. 教育研究組織

### 【判定】

基準 2 を満たしている。

### 【判定理由】

教育研究組織として、1 学科 16 コースからなる音楽学部と 4 専攻からなる大学院音楽研究科が置かれ、附属機関として同朋学園大学部附属図書館と名古屋音楽大学附属音楽アカデミーが設置されている。これらは教育研究上の目的を達成するための組織として適切に構成され、それぞれ相互に適切な関連性を保っている。

大学図書館は、同一法人の同朋大学とともに運営されているが、それぞれの大学から選出された運営委員と選書委員によって適切に運営されている。

教養教育のカリキュラムの改善案は、「部会主任」によって学務委員会へ提案され、学務委員会及び運営委員会による検討を経て教授会で審議し決定している。

より充実した組織整備や審議に向けて工夫の余地はあるものの、教育方針を形成する組織と意思決定過程は、大学の使命・目的及び学習者の要求に対応できるよう整備されており、概ね適切に機能している。

## 基準 3. 教育課程

### 【判定】

基準 3 を満たしている。

### 【判定理由】

教育目的を達成するために、教育課程が体系的に編成され、その内容も適切に設定されている。大学の教育課程は、1 学科のもとで設定された 16 コースに対応して、「教養教育科目」と「専門教育科目」からなり、専門性を優先しつつも、「副科」の実技科目を 3 科目まで履修を可能とすることで、学生が幅広く音楽を学び得るよう工夫がなされている。

大学院は 4 専攻からなり、教育目的に基づいて教育課程が体系的に編成され、その内容も適切である。

レッスン担当教員の変更制度で、学生の申し出に基づく個人レッスンの担当教員の変更を保障している点は、音楽大学の教育姿勢として注目に値する。また、仏教の教えを建学の精神としていることを踏まえ、邦楽及び東洋・アジアの民族音楽に関する講座を開設している。今後は、授業計画や成績評価基準についてのシラバスへのより明確な記載に期待したい。

学生の学習状況・資格取得状況・就職状況については、レッスン担当教員や厚生部、キ

キャリア支援センターなどによって調査が行われている。

**【優れた点】**

- ・邦楽及び東洋・アジアの民族音楽に関する講座を開設し、建学の精神である仏教の教えを教育課程に十分に反映させていることは、評価できる。

**【参考意見】**

- ・学部及び研究科のシラバスに、授業計画や成績評価基準が全く明示されていない科目や、授業計画の記述が極めて不十分な科目が散見されるので、大学設置基準の趣旨に沿って、記載内容を充実させることが望まれる。
- ・大学院の成績評価基準が学則などに定められていない点について、早急な対応が望まれる。

**基準 4. 学生**

**【判定】**

基準 4 を満たしている。

**【判定理由】**

建学の精神、大学の使命・目的に基づいたアドミッションポリシーは、ホームページや大学案内に明確に示されており、オープンキャンパス、入試説明会及び各種進学相談会などにおいて、広く周知に努めている。

入学試験は、AO 入試、各種の推薦入試、一般入試、社会人入試、編入学試験など受験生のニーズに対応して多彩な方式をとっており、適切に運用されている。

収容定員については、学部・大学院ともに在籍学生を概ね適切に確保しており、大学教育にふさわしい環境を維持している。

学生への学習支援の体制については、オフィスアワー制度の実施が望まれるものの、学務関係の教員・職員を通して学生の意見などをくみ上げている。

学生サービスの体制については、専任の相談員が配置され、学生に対する健康相談、心的支援、生活相談などを適切に行っている。

就職・進学支援は、「厚生部キャリア支援センター」がセミナーや「就職の手引」などを通じて就職指導を行っている。

**基準 5. 教員**

**【判定】**

基準 5 を満たしている。

**【判定理由】**

教育課程を遂行するために大学設置基準上、必要な専任教員数・教授数は確保され、適

切に配置されている。

教員の採用・昇任の方針は、「名古屋音楽大学教員選考規程」などに定められており、教授会において教員の採用・昇任が決定され、適切に運用されている。教員の教育担当時間は妥当な範囲内であり、教員の教育研究活動の支援体制として、TA( Teaching Assistant) 及び RA( Research Assistant) の制度は実施されていないものの、大学または大学院の卒業生を研究員とすることによって、教育研究活動の支援のために活用している。

研究費に関する運用は、「名古屋音楽大学研究費支給規程」に基づき、教育研究目的を達成するための資源として配分している。

教員の教育研究活動を活性化するための取組みについては、「学校法人同朋学園大学教員評価制度委員会規程」が施行され、学園規模における教員評価制度を導入している。また、平成 20(2008)年度に FD 委員会が設置され、すべての教員に対する自己評価アンケートを実施するなど、今後の更なる充実が期待される。

## 基準 6. 職員

### 【判定】

基準 6 を満たしている。

### 【判定理由】

職員の組織編制の基本視点及び採用・昇任・異動については、理事長が毎年度「人事異動方針」として策定している。学園事務局長はこの方針に基づき、所属長の要望が人事に反映可能なシステムをとりながら職員の採用・昇任・異動に係る「学校法人同朋学園職員人事計画」を作成し、学園人事委員会においてこれを検討して承認する手続きとなっており、学園の職員人事政策は適切に運営されている。

SD(Staff Development)に関しては、年 1 回全事務職員を対象として「学園事務職員研修会」を行っている。また、平成 18(2006)年度からは事務職員の質の向上のため「新たな職員研修プログラム」を年間を通して段階的に「新任研修」「職位別研修」「マナー研修」「IT 研修」などを実施し、平成 21(2009)年度からは「育成型職員研修」を開発したほか、新たな「自学プログラム」を開始している。

教育研究支援のための事務体制については、「教務部教務課」「学生部学生課」として分離されていた部局を「学務部学務課」として統合し、教育研究支援と学生の厚生補導・学習支援との分野の横断的対応ができるよう改善している。また、オーケストラ授業補助、各種授業伴奏者などの非常勤職員の配置がなされ、教育研究を直接支援する体制として適切に機能している。

## 基準 7. 管理運営

### 【判定】

基準 7 を満たしている。

**【判定理由】**

大学の使命・目的を達成するために管理運営の方針が示され、機能している。

教学部門と管理部門の連携も所属長会、運営委員会及び部局連絡会などで大学運営の共通の目的を共有し適切に行われている。

自己点検・評価については、平成 6(1994)年に「名古屋音楽大学自己点検評価委員会」を設置し、平成 8(1996)年に「明日に響く―名古屋音楽大学自己点検・評価報告書」が公表された。その後、平成 17(2005)年に「名古屋音楽大学評価委員会」に移行し、今日に至っているが、教員の研究業績調査を除けば、その活動は散発的である。今後は学園で実施される教員評価制度と連動しながら組織的な取組みに期待したい。

理事、常任理事、監事については「学校法人同朋学園寄附行為」に基づいて選任され、理事会、常任理事会も適切に運営されている。また、監査については、学園監事による監査、監査法人による監査のほかに「同朋学園内部監査室」を設置し、「三様監査」を実施し始めている。

**【改善を要する点】**

- ・この認証評価受審まで自己点検・評価活動が教員の業績調査、学生アンケートなど個別の活動にとどまっており、組織的な取組みが行われていない点について、改善が必要である。

**基準 8. 財務**

**【判定】**

基準 8 を満たしている。

**【判定理由】**

学園のキャンパス整備事業を「学園拡充準備金」「学園振興資金」などの積立金による自己資金を主な財源として行っている。「三大学統合計画」を視野に入れた安定的収入確保を前提とする中長期収支予測を常任理事会で策定しており、収支均衡を考慮した運営を目指した学園あげての改革が行われている。

会計処理については、学校法人会計基準、「学校法人同朋学園経理規程」及び「学校法人同朋学園経理規程細則」その他の関係規程に基づき適切に行われ、監査法人による会計監査が年間を通して計画的に行われている。

財務情報の公開は私立学校法で求められる書類を本部事務局に備え置くとともに、「同朋学園財務情報閲覧規程」に従い、ステークホルダーからの請求に応じて閲覧に供している。また、これらの情報は、学園広報誌「Campus Report」、学園ホームページ上に掲載して広く公開されている。

外部資金の導入などについては科学研究費補助金を含む競争的資金の獲得に、より積極的に努めることが求められるが、平成 20(2008)年度では特定公益増進法人であることの証明を受け、「施設設備整備事業寄付」募金活動を行い実績を上げているほか、「遺贈による寄附金」制度の構築など、新たな外部資金導入へ意欲的に取り組んでいる。

## 基準 9. 教育研究環境

### 【判定】

基準 9 を満たしている。

### 【判定理由】

平成 19(2007)年より同朋学園名古屋キャンパス第二次整備事業を推進し、教育研究環境の充実に努めている。校地・校舎の面積は、共に大学設置基準を十分に満たし、施設設備などは適切に維持、運営されている。

大学が擁する「めいおんホール」「成徳館 12 階ホール」「ホール Do」の 3 つのホールでは、学内演奏会、特別講師による公開授業、オーケストラ演奏会、学生たちのサークル活動などにいたるまで、多様な教育研究活動のために幅広く活用されている。ピアノを中心とする練習室は充実しており、学生証・教職員証を用いたカードリーダー認証による入室管理システムが整備され、利便性と安全性が確保されている。図書館の開館時間も、最終授業終了後も図書館で学生が学習できるように、十分に設定されている。

必要な耐震工事は既に実施され、施設設備の安全が確保されている。バリアフリー化などに関しては、工事中の環境に起因する制約があるものの、対象学生へ特別の介助を行うなど、配慮に努めており、工事の完了に伴い並立する建物が全階にわたり廊下で連結されるなど、大幅な改善が確保される。

第二次整備事業が平成 22(2010)年 1 月に予定通り完成すれば、食堂、学生サロン、女子寮などを含め、アメニティに配慮した教育環境が更に整うことになる。

## 基準 10. 社会連携

### 【判定】

基準 10 を満たしている。

### 【判定理由】

大学施設の開放として、ホールなど（「めいおんホール」を除く）の施設の一般への貸出し、図書館の外部への閲覧許可、公開講座の開催、リフレッシュ教育など大学が持っている物的・人的資源を社会に提供する努力がなされている。その他、一流の音楽を学生に体験させるため、海外から優れた演奏家を招聘しての演奏会も開催しており、一部の演奏会を除き無料で市民に開放し、地域社会に密着した文化行事として高い評価を得ている。

また、大学が主催あるいは他団体との共催によって開催される「公開講座」などは、「音楽と人生」をテーマに、音楽界において活躍する著名な講師を招き、学部授業の「総合教育科目」の一環として、学生と一般市民が共に音楽を学び共感する場となっている。名古屋市からの依頼で「ナゴヤまちかどアンサンブル」が、愛知県内の 3 つの音楽大学の協力により開催されている。

## 基準 1 1. 社会的責務

### 【判定】

基準 11 を満たしている。

### 【判定理由】

建学の精神が大学の組織倫理の基底をなす考え方として据えられており、それをもとに「教職員勤務規程」をはじめとする必要な組織倫理に関する規程が整備され、これらの規程に基づいて教職員を律しながら概ね適切に運営が行われている。

学生、生徒、園児、教職員の安全を確保するために「学校法人同朋学園<統括>消防計画」を策定し、自衛消防隊が組織されている。また、「名古屋音楽大学消防・防災計画」により消防・防災の具体的対応を定め、それを有効性かつ実効性のあるものにするために避難訓練を実施するとともに、独自の緊急連絡網体制などを整備して全教職員に周知している。また、防災機関と協議し、災害時に備えて学園の震災対策要員及び帰宅困難学生などのために、名古屋キャンパス内に備蓄品倉庫が設けられ、飲料水・非常用食品・医薬品などが準備されていることは注目に値する。

大学の教育研究成果を学内外に広報するための活動体制は、教育研究成果の発表を行う各種の演奏会活動のピーアールをホームページ上に掲載するとともに、年間の演奏会リストや毎回の開催内容を印刷したチラシを作成し、広く市民の目に留まるようにしている。教員による研究成果を発表するため「名古屋音楽大学研究紀要」としてまとめ、年に1度発行し学内外に配付し公開している。また、名古屋音楽大学機関誌「めいおん」を年に2度発行し、卒業生や在学生の保護者などの大学関係者に送付して、大学の現況を報告するとともに情報の共有を図っている。

